

北秋田市の  
小笠原工務店

# 新築住宅を耐震診断

## 引き渡し前に建物と地盤揺らしコンクリータ解析

### 同市内で震災で施主の関心高まる 初めて

北秋田市中野町の小笠原工務店（小笠原美生子社長）は7日、引き渡し前の新築住宅で、コンクリータ解析による耐震診断を行った。市内の新築住宅で地震でも倒壊しない強度があるか測定するのは初めて。同日本大震災で建物の耐震性への意識が高まっていることを背景に、住者リッパム時などに診断を依頼する施主が増えているという。成康市場として注目されている。



建物に振動を発生させる機械  
（北秋田市上杉の新築住宅で）

新築住宅は近々床面掘削を完了する。一部の地盤が軟弱な土質のため、不安定な改修工事が必要。中が分断している。また、10万円引き上げられた。

今地盤の劣化が注目を集めている。地盤改良では全国で導入例が増えている「天然採石パイル工法」を採用。掘削した穴に入れた採石で建物を支えるほか、地盤の層には地下水を地上に逃すため液状化を防ぐことできる。天然採石のみ使ったため、コンクリートやパイルなどの産業廃棄物が出ないメリットもあるという。

耐震診断は建物と地盤の両方で実施。建物の診断は機械をアム中心部に設置し、震度1程度の振動を発生させ住宅を揺らす。地盤の診断は各箇所の地盤に設置した機械で地中に地震波を送り、波の伝わり方を見る。数値化されたデータを解析し、建物の耐用年数の高いと大規模な修理（面壁や柱壁）が必要ないか、倒壊しない程度の強度があるか判定する。引き渡し前の耐震診断を計画する際は、建物の経年表で

地盤設計事務所システムを担当した住宅地盤技術研究所（秋田市）の寺沢誠一社長は、「6年前から行っているが、震災前は強弱の向いてもらえなかった。施主の関心は震災



前は住宅のデザイン、設計」と話す。倒壊したが、震災後は地盤改良は「耐震診断」は診断を「とらびかけて」聖と建物の耐震に移っ。果が出るまで一週間程いる。

## 秋 北

# 建物揺らし耐震性数値化

### 北秋田市の 小笠原工務店 研究所に依頼、市内初

北秋田市上杉に建設中の住宅で、建物と地盤の耐震診断が行われた。建物と地盤の両方で、コンクリータ解析による耐震診断が行われた。建物と地盤の両方で、コンクリータ解析による耐震診断が行われた。



耐震診断を行った上杉に建設中の住宅

北秋田市の小笠原工務店（小笠原美生子社長）は7日、引き渡し前の新築住宅で、コンクリータ解析による耐震診断を行った。市内の新築住宅で地震でも倒壊しない強度があるか測定するのは初めて。同日本大震災で建物の耐震性への意識が高まっていることを背景に、住者リッパム時などに診断を依頼する施主が増えているという。成康市場として注目されている。

耐震診断は建物と地盤の両方で実施。建物の診断は機械をアム中心部に設置し、震度1程度の振動を発生させ住宅を揺らす。地盤の診断は各箇所の地盤に設置した機械で地中に地震波を送り、波の伝わり方を見る。数値化されたデータを解析し、建物の耐用年数の高いと大規模な修理（面壁や柱壁）が必要ないか、倒壊しない程度の強度があるか判定する。引き渡し前の耐震診断を計画する際は、建物の経年表で

秋田地方気象台は12日、「雨と強風」に関する気象警報を発表。同日夕方にかけて大気の状態が不安定なため、雷が降るなどして、強風などの激しい気象現象、雷、ひょうなどの注意を要する予見が得られた。

秋田地方気象台は12日、「雨と強風」に関する気象警報を発表。同日夕方にかけて大気の状態が不安定なため、雷が降るなどして、強風などの激しい気象現象、雷、ひょうなどの注意を要する予見が得られた。

秋田地方気象台は12日、「雨と強風」に関する気象警報を発表。同日夕方にかけて大気の状態が不安定なため、雷が降るなどして、強風などの激しい気象現象、雷、ひょうなどの注意を要する予見が得られた。